

こども本の森

中之島

Nakanoshima Children's Book Forest

2020年3月1日(日)、「こども本の森 中之島」がオープンします。

場所は、大阪市の中心部に流れる堂島川と土佐堀川とにはさまれた、水辺にある中之島公園内。

100年以上前に開館した重要文化財の大阪市中央公会堂や、東洋陶磁美術館などが立ち並び、古くから大阪文化の中心地と位置付けられてきた場所です。ここに、絵本や物語の文化が代々引き継がれていく「物語の聖地」が生まれます。

【こども本の森 中之島】

所在地：大阪府大阪市北区中之島1丁目1-28（中之島公園内）

子どものころから、本を読むことを通して多くのことを学んできました。読書体験がなければ、医学を志していなかったかもしれません。幼いころからたくさんの本に触れ、読書体験を積むことは、その子の将来、そして行く行くはこの国の未来にとって大きな財産となります。豊かな想像力を持った元気な子どもたちが育っていくことを期待しています。

山中 伸弥

こども本の森 中之島 名誉館長
京都大学 iPS 細胞研究所 所長

地球は一つ。
ここからの社会を担っていく
子どもたちには、元氣よく自由に
世界に向け、羽ばたいてもらい
たい。そのためには幼い頃から
本を読んで、豊かな感性や
想像力を育むことが大切だ。

新しくオープンする
「子ども本の森 中え島」が
子どもたちと「自分だけの一冊」
との大切な出合いの場となる
ことを期待している。



Tadao Ando

安藤忠雄



館内イメージ

「こども本の森 中之島」の設計は安藤忠雄さんです。建物内に入ると、3フロア分の壁がすべて本棚になっています。まさに“本の森”。生命力たっぷりにのびのびと生い茂る森の木々のように、どこにいても壁一面の本がここへ来る子どもたちに視線を投げかけます。「この国のこれからを支えていく子どもたちに、豊かな感性を育ててほしい。手軽で瞬時に情報を入手できるインターネットとは違う、読書だから期待できるものがある。」この場所には、安藤忠雄さんのこんな思いも込められています。

大きな木の根っこのような大階段や、階段裏の少し奥まったスペース、静まりかえった円筒吹き抜けの空間、窓際のソファ、建物内には様々なスペースがあります。みんなで物語を聞く読み聞かせ、大人数でのギャザリング読書、一人で没頭するなど、その時々によって場所を見つけ出す楽しみがあります。また、建物外（中之島公園内）に本を持ち出してもよいのです。公園内の水辺、木陰のベンチ、芝生の上に寝転んでなど、子どもたちは一体どんな場所を見つけ出して、この日に出会った本の世界へ旅立つのでしょうか。とてもわくわくする光景です。

「こども本の森 中之島」のクリエイティブ・ディレクションはブックディレクター 幅允孝 (BACH) が手がけています。「子どもたちのまっさらな心に語りかけるものが詰まった愉快的な本箱」「絵本や物語の文化が代々引き継がれていく聖地」そんな場所へ成長させていきたいという想いのもと、ジャンルにも時間にもとらわれず、こどもの素直な眼差しと感受性に語りかける、こどもの心持ちに寄り添うような多種多様な本を選び、下記の12のテーマに沿って配架します。

【12のテーマ】

- ①自然と遊ぼう ②動物が好きな人へ ③体を動かす ④まいにち ⑤食べる ⑥大阪→日本→世界
- ⑦きれいなもの ⑧ものがたりと言葉 ⑨未来はどうなる？ ⑩将来について考える ⑪生きること、死ぬこと
- ⑫こどもの近くにいる人へ

また「あの人の本棚」という特別なスペースもあります。ここでは、「こども本の森 中之島」にゆかりのある方の本を定期的に紹介していきます。お一人目は、こども本の森の名誉館長、山中伸弥氏の本を紹介します。

子どもたちの素直な眼差しと感受性を大切にする「物語」の聖地をつくる。

それが、「こども本の森」のコンセプトです。

近頃は大人だけでなく子どもたちまで「時間がない」という言葉を発するようですが、そんな時代だからこそ没入に時間がかかり、即効性より遅効性に重きをおく「本」という存在に触れて欲しいと思っています。

インターネットやソーシャルメディアでは数多の情報や感情が流れ、人に替わってAIがものを考える未来が来ると言われています。が、そんな時にこそ自分の中に深く刺さって抜けない何か「その人」の存在を示す証になるのではないのでしょうか？決して書き直しができず、よく推敲された紙の本。

それらは、流れゆく情報よりも人の核に刺さりやすいと私は考えます。

また、(自分もそうでしたが) こどもは、こども扱いされることが余り好きではありません。

一方で、固定観念にとらわれない子どもたちの柔らかな感受性は驚くべき集中力や直感を全開にして本の世界を、正直に、真摯に受けとめてくれます。本の裏にある対象年齢にとらわれず。

ですから、本施設では乳幼児から楽しめる絵本を中心としながら、幼年童話、児童文学、小説、各分野の図鑑、自然科学書、芸術書など様々なジャンルの本を選びました。

また、それらに対する興味喚起をうながすため、できるだけ新しい手法で丁寧に本を差し出します。

そして、自発的に本を読む習慣や、書き手の想いを1人の読み手として受け取る喜びを知ってもらいたいのです。

子どもたちの限りない好奇心をせき止めない「こども本の森 中之島」に、ぜひご来館ください。

こども本の森 中之島
クリエイティブ・ディレクター
幅 允孝 (有限会社 BACH)

オリジナルグッズ

文房具から加工食品、生活雑貨までさまざまなアイテムを展開します。子どもたちが好きなもの、大人たちにも良いなと思ってもらえるもの、親子で楽しめるもの、本との関係性を濃密にするもの、この場所に来た記念になるもの 様々な視点から発想し、すべてオリジナルで企画をしている「こども本の森 中之島」でだけご購入いただけるアイテムです。

アートディレクターの尾原史和がデザイン、マーチャンダイザーの山田遊が企画を行なっています。



「青リンゴアメ」

1948年大阪創業のパイン株式会社。かの有名な輪切りのパイナップルの形をした飴を約70年製造しています。エントランスに設置された青りんごのオブジェにちなんで、青リンゴアメをつくりました。¥300



「測量野帳」

測量野帳は大阪に本社のあるコクヨの1959年来のロングセラー。こども本の森 中之島は物語の聖地であるとともに、建築の聖地にもなっていくでしょう。測量手帳はもともと建設現場などでメモ用に使われています。ブルー/グレー 各 ¥500



「木製ボールペン」

ほんのり香りも漂う、天然の木の素材で作られているボールペン。見た目も感触も優しいぬくもりがあります。本に囲まれていると想像が広がって、心に留めておきたい言葉をメモに綴りましょう。¥450



「クーピーペンシル」

色鉛筆の描きやすさとクレヨンの美しい発色を併せ持つ「クーピー」は、日本の子どもたちのお絵描き道具の定番アイテム。大阪の会社サクラクレパスが製造しています。オリジナルのパッケージで12色入りです。¥1,000



「てぬぐい」

「こども」「本」「森」のピクトグラムが一面に可愛らしく配置されたてぬぐい。地元、大阪のてぬぐい専門店「にじゆら」で製作しています。実用性に優れた木綿のてぬぐいは、海外などからここへ来館する方への日本のお土産にも。¥1,300



「ハンドタオル」

ガーゼとパイルの良さを合わせた肌触りの良い、吸水性抜群のタオル。お子様連れの親御さんに使用頻度が高いアイテムは何かとお聞きしたら、きっとタオルは上位にあるはず。大阪のメーカー「神藤タオル」で製作しています。¥900



「ストローボトル」

環境のことを考えると、飲み物はできるだけマイボトルで持ち歩きたいと思います。落ち着いた色合いで、程よいサイズ感なので大人も子供も使いやすいです。小さな子どもも飲みやすいストロー付き。¥3,500



「ピクニックラグ」

こども本の森 中之島の本は、建物外（公園内）に本を持ち出せます。芝生にこのラグを広げて寝そべりながらの読書はいかがでしょう。製造は大阪の「山陽製紙」。工業用に用いられるクレープ紙で作られていて環境に優しくとても丈夫です。¥2,000



「マグカップ」

本を外に持ち出して、ラグを敷いて本を読むならば、水筒にたっぷり用意したお茶を時々飲みながら、なんて素敵です。軽くて割れにくく、耐熱なので外での使用にもとても便利です。¥1,500



「mt マスキングテープ」

子供も大人もみんな大好きな「マステ」。ラッピング、デコレーションなどに重宝。パリエーションの分だけ楽しみも広がります。白地にグリーン「こども」「本」「森」のピクトグラムが連続するこちらぜひあなたのマステコレクションに。¥400

オリジナルグッズ



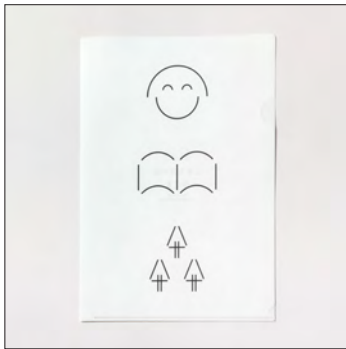
「絆創膏」

こどもはこれを貼るのが好き。お母さんは、こどもが転んだり引っ掻いたりしてケガをしたときのために、バッグの中に忍ばせていることが多いようです。元気印の勲章に。¥450



「ポストカード」

こども本の森 中之島に来て素敵な本との出会いがあったら、このカードにタイトルや感想を綴って友人や家族に送るとするのも素敵な習慣になるかもしれません。4種 各¥150



「クリアファイル」

お土産にも実用アイテムとしても。本にまつわるメモやフライヤーなどはこのファイルに仕分けして入れておく、なんていう使い方もよいかもかもしれません。¥300



「トートバッグ」

本、ストローボトル、ラグを入れて長い紐を肩から斜めがけにして公園へ。お稽古の時に道具や本を持ち歩くのにもちょうど良いサイズです。¥3,000



「Tシャツ」

子どもから大人まで対応のサイズ展開が豊富なオリジナルTシャツ。ピクトグラムを配置したシンプルなデザインなので、老若男女問わず活躍の1枚です。

KIDS 110 / 130 各¥2,200
M / L 各¥2,700



「ステッカー」

こどもは大好きステッカー。べろっと剥がしくっつくかわかると、窓やテーブルなどあちこちに貼りたくなるものです。そんな子供心をくすぐってしまうオリジナルステッカー。¥400



「缶バッジ」

缶バッジとは、ちょこっと付け足すセンスを磨いてくれるアイテムかもしれません。バッグや帽子にここだ、というスペースを見つけて格好よくおさまると、とても嬉しいものです。ぜひご挑戦を。

3種 各¥250

※表示はすべて税抜価格

マーチャンダイジング： 山田 遊 (やまだゆう)

東京都出身。南青山のIDEE SHOPのバイヤーを経て、2007年、method (メソッド) を立ち上げ、フリーランスのバイヤーとして活動を始める。現在、株式会社メソッド代表取締役。21_21 DESIGN SIGHT SHOPなど、さまざまな店のディレクションを手がける。

「別冊 Discover Japan 暮らしの専門店」(エイ出版社 2013年)、「デザインとセンスで売れる ショップ成功のメソッド」(誠文堂新光社 2014年)。児童文学作家の神沢利子の孫にあたり、1983年に出版された「ゆうくとぼうし」のモデルでもある。

wearemethod.com

アートディレクション： 尾原 史和 (おはらふみかず)

1975年高知生まれ。BOOTLEG代表。雑誌や書籍・図録やカタログなどのエディトリアルデザインを中心として、店舗や展覧会のアートディレクションなど、多岐にわたり活動をしている。マルチプル・レーベルとして写真集や画集の出版、靴などのプロダクトを製作。

著書に『逆行』(ミシマ社)、『デザインの手がかり』(誠文堂新光社)、E&Yより作品『Rule Book』を発表。bootleg.co.jp

【こども本の森 中之島 施設概要】

所在地：大阪市北区中之島 1 丁目 1-28（中之島公園内）

開館日：2020 年 3 月 1 日（日）

※開館日翌日の 2020 年 3 月 2 日（月）は臨時開館

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日は休館）、他・年末年始、蔵書整理期間など

入場料：無料

構造：鉄筋コンクリート造 3 階建

延床面積：約 800 平方メートル

設計：安藤忠雄

*開館から当面のあいだは混雑が予想されるため、3 月～5 月の期間は【土日祝・春休みは予約制】、【平日は整理券】により入館をご案内します。

最新情報は下記でご案内をしています

<https://kodomohonnomori.osaka>

Instagram: @ncbf2020

Facebook / Twitter: @NCBF2020

Profile

こども本の森 中之島は、JV（共同企業体）である TRC & 長谷工 meet BACH が運営をしています

株式会社図書館流通センター（TRC）

TRC は 1979 年の創業以来、TRC MARC（本の書誌データ）の製作、本の装備、選書・発注システム（TOOLi）の開発、図書館の運営、PFI 事業への参画など、図書館のその時々ニーズに応じて、ノウハウを蓄積してきました。図書館は、本を貸し出すだけの施設から、市民の課題を解決したり、市民の居場所へと変化しています。コンテンツを収集、保存し、市民へ提供する役割は変わりませんが、それに加えて地域のにぎわい創出に寄与し、まちづくりの役割も担っています。そのような変化の中で、それぞれの地域ならではの、オリジナリティのある空間やサービスをご提供できるよう、私たちの役割も変化していることを実感しています。www.trc.co.jp

有限会社 BACH（バッハ）

ブックディレクターの幅允孝を代表とする選書チーム。人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、動物園、学校、ホテル、オフィスなど様々な場所でインタビューワークをベースにした選書やその差し出し方に留意したライブラリーの制作をしている。最近の仕事として「札幌市図書・情報館」の立ち上げや、ロンドン、サンパウロ、ロサンゼルス「JAPAN HOUSE」ライブラリーなど。近年は本をリソースにした企画・編集の仕事も多く手掛ける。www.bach-inc.com

株式会社長谷工コミュニティ

『都市と人間の最適な生活環境を創造し社会に貢献する』という長谷工グループ企業理念のもと、私たちは、建物管理を行う上で「安心」「安全」「快適」という3つの観点で建物を利用されるみなさまを守ることに加え、豊かなコミュニティづくりを積極的に進め、より楽しく心地良い環境を提供していきたいと考えています。ゼネコン系建物管理会社ならではの高い技術力と豊富な経験を最大限に活かしながら、こども本の森 中之島を安心・安全・快適な施設とすべく建物管理はもちろん建物修繕や修繕計画等様々な提案を行ってまいります。 www.haseko-hcm.co.jp

PRESS CONTACT ご質問、取材や掲載等に関するご希望は下記プレス担当までご連絡ください。

竹形尚子（デイリープレス）

東京都目黒区青葉台 3-5-33 川辺ハイツ 1F

tel. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org